

中学校

マナーブックづくり

○目標となる資質・能力

自治集団づくりに資する力、規律性

○指導のねらい

居心地の良いクラスについて考え、自分のクラスに必要なマナーブックを作成することによって、クラスづくりに主体的に関わろうとする態度を養う

○準備するもの

(必要に応じて)マジックペン、画用紙など

○教育課程、実施時期

特別活動、クラスの落ち着きがなくなってきたとき

○留意点など

製作物は、実施時のクラスの状況に応じて活用方法を工夫すること

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1 本時の目標を知り、学習の見通しを持つ 居心地の良いクラスについて考えよう	・みんなで居心地の良いクラスをつくらうという気持ちを喚起する
展開 30分	2 居心地の良いクラスとはどんなクラスかを考え、班内で発表する 3 班ごとに発表し、居心地の良いクラスとはどんなクラスなのかをまとめる 4 今のクラスの居心地の良さについて考え、班内で発表する 5 マナーブックを作成し、班内で発表する 6 班ごとに発表する	・個人で考えたのち、班内で共有する ・全員が居心地良く暮らすためには、みんなが少しずつ我慢することもある必要であるということを見いだしさせる ・自分だけでなく、クラスの誰かが居心地の悪さを感じている部分についても考えさせる ・マナーを1人1つに絞って作成させる ・必ず理由も記入させる ・みんなの思いを共有する
まとめ 10分	7 居心地の良いクラスにするには、みんなの協力が必要であることを知る 8 本時の学習を振り返り、感想を書く	・マナーブックにはみんなの思いが込められていることを実感させる ・活用方法について了承を得る

参考

○「居心地の良いクラスをつくろうという気持ちの喚起」について

本授業は、クラスの現状を教材にしている。よって、授業を始める前に、真剣な態度で考えて、前向きにクラスを変えていこうとするポジティブな雰囲気をつくる必要がある。また、自治集団づくりを目的としていることから、「先生が考えさせる」ではなく、「みんなで考える」という主体的な活動を動機づけることも大切である。

○「みんなが少しずつ我慢することも必要」について

居心地の良い集団になるためには、集団に属する全員が、あるレベルの幸福感を均等に共有できなければならない。しかし、個人の価値観は集団の価値観とは異なるため、集団は個人の価値観に沿わない部分が必ずある。そうであるにも関わらず、集団よりも個人の価値観の充足を優先してしまうことが「自分勝手」や「わがまま」といった言動となる。こういったことを「みんなが8割の幸せを得るために、みんなが2割ずつ我慢できるクラスにしたいね」というようなわかりやすい表現でまとめたい。

○「必ず理由も記入させる」について

考えたマナーそのものよりも、そのルールが必要だと思う理由の中に、その生徒のクラスへの思いが表現されている。逆に言えば、マナーの文言だけが独り歩きすれば、決まりによる拘束感や、作成者に対する疑念などが生まれ、クラスの雰囲気が乱れることも予想されるので、十分に留意したい。

○「マナーブックの活用方法」について

本授業の目的は、①クラスづくりに主体的に関わる態度を養うこと、②クラスに対する自分の思いを表現させること、③クラスに対する他の人の思いを知ることであり、これらの活動を通して、④規律性を養うことである。これらを鑑み、作成したマナーブックの活用方法については、クラスの現状を踏まえた上で十分に配慮することが必要である。また、選択した活用方法によって、ワークシートやマナーブックの形状、様式、材質などを工夫するとよい。

(マナーブックの活用例)

- ・クラス内に掲示し、クラス全体でみんなの思いを共有する。
- ・廊下に掲示し、学年全体でみんなの思いを共有する。
- ・学級通信などに掲載し、クラスの思いを発信し、保護者にも協力を得る。
- ・意見を集約し「〇組のルール」などとして定め、学級経営に活かす。